

「F O O L B E L I E B E S」

浜崎 純（24）会社員

伊藤 明美（24）ていね酒場ウェイトレス

田原 由紀子（23）明美の友人

伊藤 愛子（3）明美の子

○サツポロテイネスキー場・外観

○同・オリンピックゾーン

浜崎 純（24）が斜面を滑っている。
スピードを制御できなくなっている。

前方に伊藤 明美（24）と田原 由

紀子（23）が立っている。

浜崎 「すみません！ちよつと！」

倒れた浜崎が転がって来る。

悲鳴をあげる明美と由紀子。

2人にぶつかりそうになって止まる。

浜崎 「ごめんなさい」

由紀子 「なにこれ。新車のナンパ？」

明美は浜崎の顔を凝視している。

明美 「浜崎君？」

浜崎 「あ、あれ。伊藤さん？」

由紀子 「なに、知り合い？」

明美 「え、何年ぶりだろ」

浜崎 「（笑って）運命の出会い的な」

○レストラン・入口

浜崎と明美、由紀子が来る。

由紀子「私、ハイランド行ってくる」

明美「え、気を使わなくても」

由紀子「いいのよ。ごゆっくり」

由紀子はリフトの方に歩いて行く。

○レストラン・内

テーブルに向かい合って座っている浜

崎と明美。コーヒーが置かれている。

浜崎「伊藤さんはまだこっちで？」

明美「札幌の居酒屋でバイトしてる」

浜崎「昔つるんでた奴ら、どうしてるかなあ」

明美「……」

明美はブラックコーヒーを飲む。

× × ×

(フラッシュ)

高校の制服姿の明美が大きなクリーム

パフェを食べている。

× × ×

浜崎「大人っぽくなったね」

明美「そりゃ、24だし。浜崎君は今何やってるの」

浜崎「スポーツ用品の営業」

明美「へえ。大変そう」

浜崎「ノルマがきつくて」

浜崎はコーヒーに砂糖を2個入れてかきまぜている。

浜崎「伊藤さんの働いてる店行ってみようかな。なんて店？」

明美「ていね酒場よ」

○ていね酒場・外観（夜）

○同・店内

カウンターに浜崎が座っている。

近くのテーブルで老夫婦と伊藤 愛子

（5）が座っている。

明美が来る。

明美「ご注文は？」

浜崎「おすすめの料理って何？」

明美「ジンギスカン」

浜崎「じゃあジンギスカン。時間があつたら、

明日一緒に飲まない？」

× × ×

明美がテーブルの老夫婦と喋っている。

由紀子が料理を持ってくる。

由紀子「お待たせしました」

浜崎「小さな子供がいる居酒屋って珍しいね」

由紀子「ああ、あれ？明美の子よ」

浜崎「へ？」

由紀子「明美の両親が育ててるみたいよ」

浜崎「……子供いるんだ」

○浜崎の家・外観

一戸建て。

○同・居間

浜崎が父親と一緒にテレビを見ている。

母親が台所に立っている。

母「こっちにいつまでいるの」

浜崎「明後日には帰るよ」

母「そう。明日はどうする」

浜崎「女の子と会うんだ」

母「え、あんたにガールフレンド？」

父「やるじゃないか。どんな子だ？」

浜崎のスマホが鳴る。

○同・廊下

浜崎は廊下に出て電話に出る。

浜崎「もしもし」

友人の声「札幌にいるのか」

浜崎「ああ」

友人の声「スキーは行った？」

浜崎「行ったよ。偶然元カノに会った」

友人の声「へえ。彼女いたんだ」

浜崎「子供がいるんだけどね」

友人の声「え？夫は？」

浜崎「離婚したって」

友人の声「シンママか」

浜崎「明日、飲みに行くんだ」

○バー外観（夜）

○同・店内

おめかしした浜崎が、明美とカウンタ
ーに座っている。明美はきよろきよろ
している。

浜崎「こっちは空気が清々しいね」

明美「そう？」

浜崎「東京に来れば、よくわかるよ」

明美「浜崎君ってこういうところ、よく来るの」

浜崎「たまにね」

明美「バーって初めて」

浜崎はカシスコーラを飲んでいる。

明美「ウイスキーとか飲まないの」

浜崎「ああ、俺甘党なんで」

明美「ふうん」

明美はウイスキーをストレートで飲ん
でいる。

浜崎「酒、強いんだね」

明美「そりゃ、居酒屋で働いてるし」

浜崎「伊藤さん、子供がいるんだね」

明美「うん」

浜崎「誰の子か聞いていい？」

明美「田原君」

浜崎「あ、ああ、あいつか。浮気とかされな
かった？」

明美「全然。意外と根は真面目よ」

浜崎「あいつと：：：高校のころから付き合
ってたの」

明美「ううん。社会人になってから、ていね
酒場でばったり会って」

浜崎「俺と違ってかっこよかったもんな」

明美「：：：」

浜崎「ずっとこっちにいるの」

明美「そのつもり」

浜崎「東京には興味ない？」

明美「ないよ」

浜崎「ああ」

明美「なんで？」

浜崎「東京に来たらつきあえるかなって」

明美「無理でしょ。子供もいるのよ」

浜崎「……」

○道（夜）

浜崎が歩いている。

明美にラインで「今日はどうも！また会おうね」と送る。

○ていね酒場・外観（夜）

○同・店内

すいている。明美と由紀子が立っている。

由紀子「この前の彼どうだった」

明美「営業成績が上がらないって悩んでた」

由起子「悩み事相談？」

明美「うん。アドバイスしてあげた。接客のノウハウみたいなの」

由起子「向こうは明美に気があるみたいだっ
たけど」

明美「東京に来ないか、だって」

由起子「(笑って) 来るわけないじゃん」

明美「高校のころ、つるんでた仲間の一人よ。

顔付きが独特だから覚えてたけど、ほとん

ど話したこともなかったし」

由起子「へえ。高校のころはどんな感じだっ
た？」

明美「どんな：：：透明な感じ」

○ 駅のホーム

浜崎が立っている。スマホでラインを
開き、明美のラインプロフィールを見
ている。赤んぼを抱いている写真。

トーク画面を開くと、まだ明美の既読
がついていない。

スマホが鳴る。

友人の声「元カノどうだった」

浜崎「ああ。ライン交換した」

友人の声「で、会う約束したとか」

浜崎「返事はまだ」

友人の声「そうか。まあ何も無いよりはよほ

どいいだろ」

浜崎「帰郷してよかったよ」

電車がホームに入ってきて来る。